

# 子育て・子育て みしまスタイル



静岡県三島市と子育て世代を結ぶ情報紙



## 三島に移住し、新幹線通勤を15年。今、農業従事者として自然と食を大切に家族と過ごす

「富士山や駿河湾が見えたと、ここに住もう」と直観的に決めました。

鈴木達也さん(写真中央)は、初めて三島を訪れた日のことをこう語ります。神奈川県から移住し今年で16年目。静岡県中西部で生まれ育ち、大学進学を機に関西へ。その後、東京で就職しました。

奥様の美帆さん(写真左)と神奈川県で暮らしていた鈴木さんは、ある時、三島市北部にある分譲地の広告を目にしました。美帆さんとともに、週末のドライブがた軽い気持ちでそこを訪ねた時の印象が冒頭の言葉です。二人は帰路、JR三島駅へ。時刻表を見て新幹線を使えば十分に東京の職場まで通勤ができることを確認し、移住を決めました。

「若い頃は、仕事をするなら東京で、という一心でしたが、歳を重ねるにつれて自然環境のよいところで、家族と一緒に健康的に暮らしたいと思うようになりました」。三島に移住後、家庭菜園をはじめた鈴木さんは、ITを農業に活かす仕事を担当することになりました。全国の農業者を訪ねるうちに、本格的に農業をやってみたいと思うようになっていきました。



三島の地でたくましく育つ鈴木家の子どもたち。

時は流れ、三人の子どもたちが三島で生まれ、大きく育ちました。この間、仕事先で出会う農業者から技術や知恵を学び、週末は家庭菜園で実践するという生活を続けました。そして、この春、会社員生活に区切りをつけ農業者として新たなスタートを切ったのです。

現在、約4ヘクタールの畑で年間80品目、200品種を超える固定種・野菜の種にこだわった野菜を作ります。行政やJAを介し定期借地権制度を活用。耕作しなくなった遊休地を再生し、農業や化学肥料に頼らない農業をするため、土づくりに励むとともに農法や作付を工夫しています。

鈴木さんの作る野菜は、『七十二の季節を彩る定期便』として全国各地のレストランや個人宅に届けるほか、市内にあるレストラン「gawa Mishima」で味わうことができます。昔からの店のファンで、いつか野菜を使ってもらえたらと鈴木さんは願っていたそう。就農後、味見をしてもらうため収穫した野菜を店に届ける日々。ある日、電話が鳴りました。「鈴木さんの野菜を使いたい」。オーナーシェフの小川正道さんからでした。

「味がよくて、野性味があり、畑の風景が見える野菜を作る、そんな農業者を探していました。形は不揃いでも構わないんです。鈴木さんはオクラだけで8種類も持ってくる。そんな農業者に私は初めて会いました」と小川さんは言います。

鈴木さんの屋号は「フードカルチャー・ルネサンス」。食の原点をもう一度見直し、健全な食を次世代につなげていきたいという願いが込められています。「三島は水がいい。自然環境も素晴らしい。人を引き込むポテンシャルがとても高いところだと思います。未来につながる農業を目指し、家族やスタッフとともに邁進しています。



「gawa Mishima」と「フードカルチャー・ルネサンス」のコラボイベント「Vegetable gallery〜料理は畑から始まっている〜」の相談をする小川シェフと鈴木さん。



「gawa Mishima」の鈴木さんの野菜が主役の一品。素材の持ち味を存分に活かし、美しい盛り付け。http://bistrogawamain.jp/ 三島市北田町1-13 ☎055-972-5040



日本古来の種にこだわりの栽培している鈴木さんの野菜。全国のレストランや個人宅に「七十二の季節を彩る定期便」して届けています。

農場スタッフは3名。高橋日菜子さんは次世代を担う「農業女子」。大学生などインターンの受け入れもしている。

**フードカルチャー・ルネサンス**  
TEL:055-919-1439  
https://www.facebook.com/FoodCulture.R

## 新幹線で1時間! 三島は首都圏に通勤できる街 週末は家族とゆっくり。充実した子育てライフが楽しめます。



世界文化遺産「富士山」を眺めながら通勤できます

東 京の外資系企業に勤める野田一哉さん一家が三島市に移住したのは、平成24年7月。修善寺出身の千絵さんが第一子を里帰り出産し、田舎暮らしの魅力を再認識したのがきっかけでした。しかし、修善寺では一哉さんの通勤に不便。その点、三島は自然環境も良く、何より新幹線停車駅であることが一番の決め手になりました。

三島から会社までは、新幹線「こだま」で約50分、「ひかり」なら約37分。「車内でパソコンを開いて仕事をするには短すぎます」と一哉さんは笑います。出勤時間はまちまちですが、朝は3歳の結加ちゃんと1歳の航世くんと一緒に食事をして、通勤ラッシュのストレスもなく仕事に向かえる環境は、理想的と言えるでしょう。もちろん、交通費の支給は普通乗車券のみのため、月3万円は自己負担になるなど難点もありますが、「ITの進化で、近い将来はどこにいても仕事ができるようスタイルも変わってくるはず」。そうならば、居住地の選択は格段に広がるに違いありません。

「三島は山と川があり、海も近い。東京から100km圏内の都市で、これほどきれいなところはなかなかありません。それに自然に触れながら子育てするには、すごく環境がいい」。一家は昨年、市内にマイホームを建築。「新居からは富士山も見えますよ」。そんなぜいたくな夢が叶うのも、三島ならではの魅力。



### 三島イイネ! 東京から100km圏内なのに自然豊かで美しい



### 三島は走りたくなるし、散歩したくなる「私の街」



「私 自身、出産後も新幹線通勤するとは想像していませんでした。でも、母親になって改めて、自分の仕事の意義を実感したんです」。東京・市ヶ谷にある国際協力 NGO、公益財団法人ジョイセフで、途上国の妊産婦をはじめ女性支援に尽力する小野美智代さんは、平成17年に沼津で野菜卸を手掛ける宏太郎さんと結婚。ともに出身は富士市でしたが、双方の勤務地と新幹線の利便性の高さから三島市に移住しました。その後、平成20年には長女・喜那奈ちゃんを、平成26年には二女・那由映ちゃんを出産。どちらも1年間の育児を経て復職。理解のある宏太郎さんの強い動機とお互いの実家のサポートで、遠距離通勤を続けています。

「家事はできる方がやる」が基本。朝は美智代さんが保育園に送り届け、そのまま出勤。お迎えは宏太郎さんが担当しますが、どうしても都合が悪い時は、仲の良いママ友達や、両親に頼むことも。職場がフレックス制の美智代さんは、週に1〜2度だけ残業日を決め、それ以外は17時に退社。18時半には帰宅し、家族との時間を作っています。

「初めは子どもの緊急時に対応できず、「母親失格か」と悩むこともありましたが、義母に「あなたが自信を持って仕事をして、笑顔でいる方が子ども幸せ」と言われて、考えが変わりました」。そう言って笑う彼女は、ママになって女性がいキキと輝き続けられるように、街を走って健康美支援をする団体「HiPs」を立ち上げました。「三島って、走りたくなるし、散歩したくなる街。豊かな自然と風情ある街の中に、面白い店もいっぱい。「私の街」って自慢しなくなりますね」

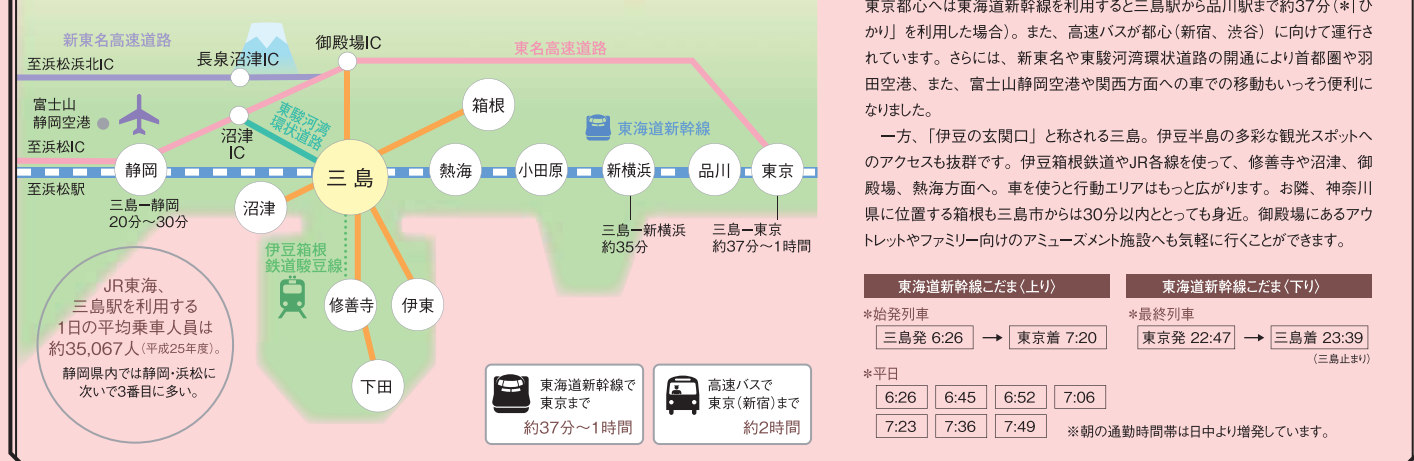


野田さんファミリー

野田一哉さん  
千絵さん  
結加(6才)ちゃん 3歳  
航世(2才)くん 1歳  
新幹線通勤者一哉さん  
通勤歴約3年  
三島市在住歴約3年

小野さんファミリー  
小野美智代さん  
喜那奈(6才)ちゃん 7歳  
那由映(4才)ちゃん 4歳  
新幹線通勤者美智代さん  
通勤歴約10年  
三島市在住歴約10年

## 東へ、西へ〜交通アクセスの良さが三島の魅力です〜



**編集後記** ■三島市と子育て世代を結ぶ情報紙「子育て・子育てみしまスタイル」。いかがでしたでしょうか。世界遺産の富士山を仰ぎ、清らかな水に恵まれた三島の風景、そんな三島で暮らしている子どもやその家族の表情から、三島を少しでも近くに感じていただけたら幸いです。平成27年5月に実施した市民意識調査では、「住みやすい」と感じる人は 88.2%と高い値を示し、多くの市民が住環境に満足しています。『三島で生活する』『三島で子育てをする』…それが多くの人の心に届くことを願って。

**お問合せ** ■本紙全般・子育て支援に関するお問合せ 三島市役所 子育て支援課 TEL.055-983-2712, FAX.055-983-2709, Eメール:kosodateka@city.mishima.shizuoka.jp ■移住・定住に関するお問合せ 三島市役所 政策企画課 TEL.055-983-2698, FAX.055-976-3155, Eメール:seisaku@city.mishima.shizuoka.jp

\*本紙に掲載している情報は、平成27年10月現在のものです。\*本紙は「地域住民生活等緊急支援のための交付金」により制作しました。



三島街なか

# 子どもと一緒にとっておきの「三島」を発見！ お散歩ナビゲーション

子どもとお散歩をすると、いつもとちょっと違う「三島」が見えてきます。  
たとえば、パパと一緒に！パパの「コドモゴコロ」も刺激する楽しいコースをご紹介します。  
三島市観光情報 [http://www.city.mishima.shizuoka.jp/kanko\\_index.html](http://www.city.mishima.shizuoka.jp/kanko_index.html)

## A 上岩崎公園

大場川に沿った、四季折々に楽しめる広い公園。子ども連れに人気なのは「アスレチック広場」。年齢に応じて遊ぶ遊具があります。また、小さな子どもも楽しめるミニせせらぎも夏場は人気（衛生上の問題から水遊びができない場合があります）。遊歩道は幅広い世代の散歩コースになっています。申請をしないと園内でバーベキューが可能。桜の名所としても市民に親しまれています。芝生広場、多目的広場、プール（夏季のみあり）。（駐車場・トイレ・水飲み場あり）  
園（バーベキューなどの申請・問合せ）三島市水と緑の課 ☎055-983-2643



楽しい遊具がいっぱい！

トイレ（ベビークープなど乳幼児用設備あり）

## B 楽寿園

JR三島駅のすぐ南に位置する自然豊かな市立公園。富士山の雪解け水による湧水と多彩な樹木が織りなす景観は美しく、国の天然記念物および名勝に指定。園内には「どうぶつ広場」や「のりもの広場」があり、子ども連れの憩いの場になっています。  
園三島市一番町19-3 ☎055-975-2570 日9:00～17:00（4～10月）、9:00～16:30（11～3月）※入園は開園時間の30分前まで。ペットを連れての入園はできません。園毎週月曜日（祝日の場合は翌日）、12/27～1/2 日大人（満15歳以上）300円、小人（満4歳以上15歳未満）50円 園専用駐車場 ※2時間まで200円以後30分ごとに50円



楽寿園で大人気のアルパカ＆カピバラ



電車にも乗ったよ



ビューポイント



宮さんの川には水車もあるんだ

源兵衛川と並行して流れる蓮沼川（宮さんの川）には鯉がたくさん。春は桜の花びらが美しく舞います。



街中を流れるせせらぎや三島の歴史・文化に、四季折々の美しい花を加え、品格のある美しいまちなみを市内外の方に堪能していただきたいと、市民と行政が一緒に取り組んでいます。



## ガーデンシティみしま



次はココ行こう！

## G 山田川自然の里

箱根連山を水源とする山田川の清流と豊かな緑が織り成す自然環境を生かして平成20年度に完成。市民農園、ユニバーサル農園、営業ヘルパー農園、散策路などがあります。そして、この里山を再生し、守り育てることを目指して活動しているのが市民ボランティア団体「山田川グリーンツーリズム研究会（やまぐり）」。「農業」「里山」「棚田」の3つを中心に、土に親しみ、人と人の交流を大切に、自然と触れ合うことができるプログラムを企画・展開しています。  
園やまぐり事務局（三島市農政課） ☎055-983-2652 やまぐり公式ブログ <http://yamaguri-ira.jp/>



三嶋大社にいます

桜川のわもの親子



## F 三嶋大社

三島市民の「街なかお散歩」には欠かせない三嶋大社。境内にはシカ、ハト、コイ、カメ、カモなどの動物たち、桜や国の天然記念物に指定されている金木屋などの樹木があり、時には白無垢姿の花嫁さんに出遭うこともあります。

## C 三島のご当地グルメ「みしまクロquette」

三島鈴箸（メークイン）を使ってつくるご当地グルメ「みしまクロquette」が三島市内の物産店、レストラン、パン屋さんなどで販売されています。中はしっとり甘く、衣はサクサク。中の具や形のアレンジは各店舗に任されていて、その違いを楽しむことができます。本町にある「グルッペ」の「みしまクロquette」は「みしまクロquette総選挙」で優勝。このクロquetteを特製パンにはさんだ「みしまクロquetteぱん」は平成24年秋に開催された「第三回 日本全国ご当地パン祭り」で見事に第一位を獲得。



「みしまクロquette」公式ホームページ [http://www.city.mishima.shizuoka.jp/mishima\\_info/croquette/index.html](http://www.city.mishima.shizuoka.jp/mishima_info/croquette/index.html)



お散歩途中で電車に乗ってみるのもオススメ！鉄道ファンのパパ・ママもドキドキワクワク。写真は伊豆箱根鉄道三島広小路駅。

# 市民・行政が一緒になって子ども&子育て世代をサポートしています



## 子どもたちの安全・安心を守ります

小学校区単位でシニア世代が中心となり「スクールガード」が結成され登下校を見守っています。また、三島警察署と市民ボランティアによる防犯サポーターとが協働で小学校、幼稚園・保育園で防犯教室を開催しています。



## 地域で子どもの誕生、育児をお祝いします「子どもは地域の宝事業」

子どもが誕生すると、「地域の子どもは地域の宝」の想いを込めて、各自治会・町内会でお祝いします。子どもは地域の人に見守られ、また地域のきずなが深まることにより、安心して子育てができる環境が三島にはあります。



## 産後のお母さん、赤ちゃんはこれで安心「産後ケア事業」

出産後、身近で家事や育児などの援助が受けられなく、また、体調不良や育児不安がある場合は、市内の産科医療機関においてショートステイやデイケアを利用することができます。（ショートステイ：1泊2日5,400円・デイケア：1,800円。いずれも非課税世帯無料）



## 利用率が高い三島市ファミリー・サポート・センター

子育てで「応援したい人」（まかせて会員）、「応援してほしい人」（おねがい会員）が会員になり、地域社会全体で子育てを助け合うファミリー・サポート・センター。「まかせて」「おねがい」「どっちも」の会員あわせて991名の市民が登録。利用率も高く「子育ては助け合い」の精神が市民に浸透しています。



## 子ども医療費等の助成を拡大しています

生まれたばかりの赤ちゃんから中学校3年生まで、通院、入院医療費の自己負担を無料とし、子どもの健やかな成長と、子育て家庭の経済的負担を軽減しています。



## 「子育てコンシェルジュ」が子育てをサポートします

三島市では、保健師などの資格と経験を持った子育て支援専門官「子育てコンシェルジュ」を配置しています。子育て中の保護者の方の立場にたって、多様な子育て支援情報や保育サービスをわかりやすく案内したり、様々な子育ての相談に応じたりするなど、子育て中の方を応援しています。



## 子育て・子育てを応援している市民グループの活動が活発です

市内には子育て・子育てを自ら応援しようと活動している団体が数多くあります。子育ての楽しさ・たいへんさを分かち合ったり、また、世代を超えた交流の中で子どもの成長を見守る活動など、地域の子育て力が高まっています。



## 教育・保育施設が充実しています

三島市内には、公私立幼稚園15園、公私立保育園18園、認可外保育施設3園、私立認定こども園、小規模保育施設があります。保育料は、保護者の負担を軽減するため、国の基準額に対して市独自に安く設定し、子どもたちの健やかな成長を支えています。